

行政視察報告書

貝塚市議会議長 阪口 芳弘 様

令和 7 年 6 月 1 日

大阪維新の会 長谷川 博文、中川 剛、中西 真知子
蓮池 陽佑、八野 裕嗣

日時：令和 7 年 5 月 1 4 日 1 0 時～

場所：奈良県天理市 天理駅前広場「CoFuFun（コフフン）」とその周辺

視察先に選んだ理由

天理駅周辺の整備は、**都市再生整備計画**の一環として進められています。天理市は、駅前の賑わいを創出し、地域の活性化を図るために、国土交通省の**社会資本整備総合交付金制度**を活用しながら、駅周辺の再整備を進めています。この計画では、以下のような取り組みが行われています。

●駅前広場の再整備

天理駅前広場「コフフン」の整備を含め、待合スペースやイベントスペースの充実を図る。

●交通環境の改善

バス・タクシープールの整備やレンタルサイクルの導入により、移動の利便性を向上。

●商業・観光の活性化

駅前の商店街や観光案内所の整備を進め、地域の魅力を発信。

これらの整備により、天理駅周辺は単なる交通拠点ではなく、地域の交流や観光の拠点としての役割を強化しています。

本市においても駅前整備は非常に重要で課題も大きい状態と捉えています。整備から 9 年が経過した天理駅前広場の現状を天理市職員に質問しました。



天理駅前広場「コフフン」の全景



質問１：このような駅前整備をするに至った経緯は？

回答：天理駅前広場コフフンとその周辺の整備は、天理駅周辺の活性化を目的としたまちづくりの一環として進められました。天理駅はJR 桜井線と近鉄天理線が交差する交通の要所ですが、人口減少に伴い駅の利用者数が減少し、駅前広場もイベント時以外は閑散としていました。

この状況を改善し、駅前を「人が集う空間」として再生するため、奈良県と天理市は包括協定を締結し、駅周辺の賑わい創出に取り組むことを決定しました。その中で、天理市の歴史や文化を象徴する「古墳」をモチーフにした広場のデザインが採用され、地域の魅力を発信する場として整備されました。

コフフンは、単なる広場ではなく、カフェやレンタルサイクル、総合案内所、屋外ステージ、遊具などを備えた複合施設として設計され、地域住民の憩いの場や観光拠点としての役割を果たしています。また、広場の名称「コフフン」は、「古墳」と「フフン〜♪」という楽しい気持ちを掛け合わせたものです。

このプロジェクトは、地域の歴史や文化を活かしながら、駅前の賑わいを創出し、持続的な活性化を目指す取り組みとして進められました。今では、イベントや観光情報の発信拠点として、多くの人々が訪れる場所となっています

質問２：オープンから９年となるが利用状況について

回答：休日は子育て世代が中心に賑わい（天理市外からの利用者も）、平日は高齢者や放課後の子どもで賑わう。空調完備の約800㎡もある南団体待合所は公共空間として開放しており、キッズスペース、スタディスペースを常設し、健康や子育てのイベントを開催している。



南団体待合所のキッズスペース



特産品や天理大学グッズの販売、物産イベントの開催

質問３：天理駅周辺のまちづくりの今後の方針

回答：駅周辺の人が市外からも人が集まるようになった。その人を隣接する商店街や市内各所への流れを作っていきたい。

〈所感〉

天理大学のサテライトキャンパス（一般の方も受講可）としても利用され、当日も学生らしき若者がいた。また近くの幼稚園児と保育士の先生が、一緒にお弁当を食べている様子が見られ、行政だけでなく、みんなで作っているという部分が強く感じられた。

天理駅は歴史・自然観光に訪れる人にとって、スタート地点としては非常に良いであろう。さらに奇抜な公園は子供たちの興味を掻き立てるだけでなく、公園内の樹木は地元高校と管理をするなど交流人口増

加だけでなく、天理市民のシビックプライドの醸成にも大きく寄与していると感じた。